

阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の骨子

下波線は、特徴と課題（前回
小委員会資料）に記載の箇所

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

(概要)

- ・ 水源から河口までの概要
- ・ 幹川流路延長、流域面積、流域の土地利用
- ・ 流域の地質、降雨量
- ・ 白河、郡山、福島などの盆地と狭窄部を交互に流れている

(流域の自然環境)

- ・ 河口から^{しのぶ}信夫ダムまで天然のアユ等が遡上
- ・ 砂礫河床の早瀬はアユやサケの産卵場
- ・ 阿武隈峡や阿武隈溪谷は多くの奇岩等が点在する壮大な溪谷景観
- ・ 観光地として名高く、観光舟下りが行われている

(阿武隈川の歴史)

- ・ 阿武隈川の語源は大きく蛇行していた「^{おほくま}大曲川」である
- ・ 松尾芭蕉の句に詠われた乙字ヶ滝など良好な景観として知られている

(水害の歴史と治水事業の沿革)

- ・ 台風北上と流下方向が重なり、狭窄部による影響と相まって、過去から甚大な洪水被害を生じていた
- ・ 大正8年より福島地区において直轄事業として着手
- ・ 昭和49年に現行の工事实施基本計画を策定
- ・ 昭和61年、平成10年、平成14年と大規模な洪水が頻発
- ・ 平成10年洪水後、「平成の大改修」として無堤部の築堤が進められた
- ・ 平成14年洪水では、狭窄部等の連続堤による治水対策の困難な箇所

で浸水被害が発生し、地形特性を踏まえた治水対策が急務

- ・支川の荒川、松川等において、砂防事業が進められている

(河川水の利用)

- ・上流域で古くから水不足に悩まされてきた

- ・明治時代に安積疏水あさかそすいによる猪苗代湖からの導水が行われた

(水質)

- ・上流部の都市化により上流の水質が悪く、支川の流入によって下流に向かい水質が改善

- ・沿川の市町村で「阿武隈川サミット」が組織され、水質改善等に取り組んでいる

(河川の利用)

- ・複数の都市を貫流しており、上中下流において、カヌー、サイクリング、散策等に利用

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(治水、利水、環境の総合的な方針)

- ・治水、利水、環境に関わる施策を総合的に展開
- ・水源から河口まで水系一貫した基本方針に基づく
- ・段階的な整備を進めるにあたり目標を明確にして実施
- ・健全な水循環系の構築を図るため流域一体で取り組む
- ・河川の有する多面的機能を十分発揮できるよう維持管理を適切に行う

ア．災害の発生の防止又は軽減

(災害の発生の防止又は軽減)

- ・洪水調節施設と河川改修により計画規模の洪水を安全に流下
- ・狭窄部等の連続堤の整備によることが困難な地域にあっては、輪中堤や宅地嵩上げ等による効率的な治水対策を実施
- ・遊水機能を維持、確保すべき地域では、遊水地や輪中堤により従来の遊水機能を維持しつつ周辺集落の治水安全度を効率的に向上
- ・河川管理施設の適切な管理と施設管理の高度化、効率化
- ・超過洪水等に対する被害の軽減

- ・ 情報伝達体制の確立等の被害軽減方策
- ・ 本支川、上下流バランスを考慮した水系一貫の河川整備

イ．河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

(河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持)

- ・ 都市用水等の安定供給や流水の正常な機能の維持のため、水資源開発を行い、広域的かつ合理的な水利用を促進
- ・ 渇水時の被害を軽減するため、情報提供等の体制を確立

ウ．河川環境の整備と保全

(河川環境の整備と保全の基本的考え方)

- ・ 豊かな自然環境、良好な河川景観の保全を図るとともに、自然再生や多自然型川づくり等を推進

(動植物の生息地・生育地の保全)

- ・ 天然アユ等の遡上環境の確保や産卵床の保全

(良好な景観の維持・形成)

- ・ 阿武隈溪谷等の河川景観の保全
- ・ 都市景観と調和した隈畔^{わいはん}等の水辺景観の維持、創出

(人と河川との豊かなふれあいの確保)

- ・ 舟運の歴史や文化等の特性を踏まえた整備

(水質)

- ・ 下流沿川都市等の水利用状況やアユ等の生息環境等を考慮し、地域住民等と連携を図りながら水質の改善に努める

(河川敷地の占用及び工作物の設置、管理)

- ・ 治水、利水、河川環境との調和を図る

(モニタリング)

- ・ 環境に関する情報を適切にモニタリングし、河川整備や維持管理に反映

(連携強化)

- ・ 地域住民や関係機関との連携を推進

(上中下流毎の方針)

- ・ 上流部では、乙字ヶ滝の河川景観、河畔林等の保全や、市街地に隣接

する地域でのレクリエーション空間の創造等

- ・中流部では、都市景観と調和した隈畔等の水辺景観の維持、創出や天然アユ、サケ等の産卵床、水際部の保全等
- ・下流部では、天然アユ、サクラマス等の産卵床等の保全や身近な自然とのふれあいの場等の創造等

2. 河川の整備の基本となるべき事項

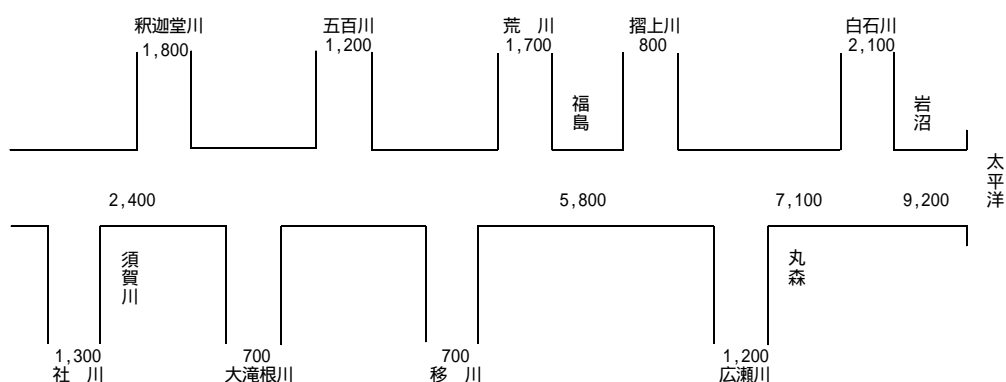
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量等一覧表 (単位: m³/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
阿武隈川	福島	7,000	1,200	5,800
	岩沼	10,700	1,500	9,200

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

阿武隈川計画高水流量図 (単位: m³/s)



(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形にかかる川幅に関する事項

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 T.P.(m)	川幅 (m)
阿武隈川	須賀川	147.8	237.49	170
	福 島	77.2	63.93	200
	丸 森	37.0	23.10	230
	岩 沼	8.0	8.14	710

注) T.P. 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

- ・ ^{たてやま} 館矢間地点 : 4 0 m³/s